

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成30年2月22日(2018.2.22)

【公開番号】特開2017-200644(P2017-200644A)

【公開日】平成29年11月9日(2017.11.9)

【年通号数】公開・登録公報2017-043

【出願番号】特願2017-157849(P2017-157849)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 0

【手続補正書】

【提出日】平成30年1月11日(2018.1.11)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、  
可変表示に関する情報を保留記憶情報として記憶可能な保留記憶手段と、  
前記保留記憶手段に記憶されている前記保留記憶情報に応じた保留表示を表示する保留  
表示手段と、

前記有利状態とするか否かを決定する決定手段と、

前記決定手段による決定前に、前記有利状態となるか否かを判定する判定手段と、

前記保留表示の表示態様が変化することを示唆する示唆演出を実行する示唆演出実行手  
段とを備え、

前記保留表示の表示態様は、通常態様と、該通常態様とは異なる態様である特殊態様と  
、該通常態様および該特殊態様とは異なる態様である特別態様とを含み、

前記判定手段の判定結果に応じて、該判定手段の判定対象となった前記保留記憶情報に  
対応する前記保留表示を前記特別態様で表示する保留予告演出を異なる割合で実行可能な  
演出実行手段をさらに備え、

前記演出実行手段は、

複数のタイミングで前記保留表示を前記特別態様に变化させて表示することが可能で  
あり、

前記保留表示が前記特殊態様で表示されたときに該保留表示を該特殊態様から前記特  
別態様に变化させて表示する制御を実行可能であり、

前記示唆演出実行手段は、前記保留表示が前記特殊態様で表示されているときと、前記  
保留表示が前記特殊態様で表示されていないときとで、前記示唆演出を異なる割合で実行  
可能であり、

可変表示が開始されてから可変表示の表示結果が導出表示されるまでに仮停止させた後  
に可変表示を再開させる再可変表示を行う特定演出を所定回実行可能な特定演出実行手段  
と、

前記特定演出において仮停止する態様を決定する態様決定手段とをさらに備え、

可変表示の表示結果として表示された態様に応じて、遊技者にとっての有利度が異なり

、

前記態様決定手段は、1 回目に仮停止する態様よりも 2 回目以降に仮停止する態様が有

利な態様となるように決定可能である、遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0001

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0001】

本発明は、可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機に関する。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

(手段 A) 本発明による遊技球は、可変表示（例えば、第 1 特別図柄や第 2 特別図柄、演出図柄の変動表示）を行い、遊技者にとって有利な有利状態（例えば、大当り遊技状態）に制御可能な遊技機であって、可変表示に関する情報を保留記憶情報として記憶可能な保留記憶手段（例えば、第 1 保留記憶バッファや第 2 保留記憶バッファ）と、保留記憶手段に記憶されている保留記憶情報に応じた保留表示を表示する保留表示手段（例えば、合算保留記憶表示部 18c）と、有利状態とするか否かを決定する決定手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ 560 がステップ S 61, S 62, S 73 を実行する部分）と、決定手段による決定前に、有利状態となるか否かを判定する判定手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ 560 がステップ S 1217, S 1228 を実行する部分）と、保留表示の表示態様が変化することを示唆する示唆演出を実行する示唆演出実行手段とを備え、保留表示の表示態様は、通常態様（本例では「 」：図 42 (A) 参照）と、該通常態様とは異なる態様である特殊態様（本例では「 」の外側に 6 本の線が描かれている：図 43 (B) 参照）と、該通常態様および該特殊態様とは異なる態様である特別態様（本例では「 」内に「×」が含まれる：図 42 (B1) 参照、「 」内に「×」が 2 つ含まれる：図 42 (B2) 参照）とを含み、判定手段の判定結果に応じて、該判定手段の判定対象となった保留記憶情報に対応する保留表示を特別態様で表示する保留予告演出（例えば、先読み演出）を異なる割合で実行可能な演出実行手段（例えば、演出制御用マイクロコンピュータ 100 がステップ S 67106, S 67114, S 1813, S 1845 等を実行する部分。図 29 (B) 参照）をさらに備え、演出実行手段は、複数のタイミング（例えば、始動入賞のタイミングや、任意のシフトタイミング、他の任意のタイミングなど）で保留表示を特別態様に変化させて表示することが可能であり、保留表示が特殊態様で表示されたとき（例えば、演出制御用マイクロコンピュータ 100 がステップ S 67107 で先読み演出を第 2 先読み演出パターンで実行すると決定し、ステップ S 67112 を実行したとき）に該保留表示を該特殊態様から特別態様に変化させて表示する（例えば、演出制御用マイクロコンピュータ 100 がステップ S 1803, S 1811, S 1813, S 1845 等を実行する部分。図 30, 図 31, 図 43 ~ 図 44 参照）制御を実行可能であり、示唆演出実行手段は、保留表示が特殊態様で表示されているときと、保留表示が特殊態様で表示されていないときとで、示唆演出を異なる割合で実行可能であり、可変表示が開始されてから可変表示の表示結果が導出表示されるまでに仮停止させた後に可変表示を再開させる再可変表示を行う特定演出（擬似連演出）を所定回実行可能な特定演出実行手段（演出制御用マイクロコンピュータ 100、ステップ S 801, S 802）と、特定演出において仮停止する態様を決定する態様決定手段（演出制御用マイクロコンピュータ 100、ステップ S 801, S 802）とをさらに備え、可変表示の表示結果として表示された態様に応じて、遊技者にとっての有利度（ラウンド数、確変状態等の有利度）が異なり、態様決定手段は、1 回目に仮停止する態様よりも 2 回目以降に仮停止

する態様が有利な態様となるように決定可能である。

そのような構成により、遊技興趣を向上させることができる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

(手段1) 本発明による他の遊技球は、可変表示(例えば、第1特別図柄や第2特別図柄、演出図柄の変動表示)を行い、遊技者にとって有利な有利状態(例えば、大当り遊技状態)に制御可能な遊技機であって、可変表示に関する情報を保留記憶情報として記憶可能な保留記憶手段(例えば、第1保留記憶バッファや第2保留記憶バッファ)と、保留記憶手段に記憶されている保留記憶情報に応じた保留表示を表示する保留表示手段(例えば、合算保留記憶表示部18c)と、有利状態とするか否かを決定する決定手段(例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ560がステップS61, S62, S73を実行する部分)と、決定手段による決定前に、有利状態となるか否かを判定する判定手段(例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ560がステップS1217, S1228を実行する部分)と、保留表示の表示態様が変化することを示唆する示唆演出を実行する示唆演出実行手段とを備え、保留表示の表示態様は、通常態様(本例では「 」:図42(A)参照)と、該通常態様とは異なる態様である特殊態様(本例では「 」の外側に6本の線が描かれている:図43(B)参照)と、該通常態様および該特殊態様とは異なる態様である特別態様(本例では「 」内に「x」が含まれる:図42(B1)参照、「 」内に「x」が2つ含まれる:図42(B2)参照)とを含み、判定手段の判定結果に応じて、該判定手段の判定対象となった保留記憶情報に対応する保留表示を特別態様で表示する保留予告演出(例えば、先読み演出)を異なる割合で実行可能な演出実行手段(例えば、演出制御用マイクロコンピュータ100がステップS67106, S67114, S1813, S1845等を実行する部分。図29(B)参照)をさらに備え、演出実行手段は、複数のタイミング(例えば、始動入賞のタイミングや、任意のシフトタイミング、他の任意のタイミングなど)で保留表示を特別態様に変化させて表示することが可能であり、保留表示が特殊態様で表示されたとき(例えば、演出制御用マイクロコンピュータ100がステップS67107で先読み演出を第2先読み演出パターンで実行すると決定し、ステップS67112を実行したとき)に該保留表示を該特殊態様から特別態様に変化させて表示する(例えば、演出制御用マイクロコンピュータ100がステップS1803, S1811, S1813, S1845等を実行する部分。図30, 図31, 図43~図44参照)制御を実行可能であり、示唆演出実行手段は、保留表示が特殊態様で表示されているときと、保留表示が特殊態様で表示されていないときとで、示唆演出を異なる割合で実行可能であり、可変表示が開始されてから可変表示の表示結果が導出表示されるまでに仮停止させた後に可変表示を再開させる再可変表示を所定回実行可能な特定演出(擬似連演出)を実行する特定演出実行手段(演出制御用マイクロコンピュータ100、ステップS801, S802)と、特定演出における最後の再可変表示が実行された後に表示する態様を決定する第1態様決定手段(演出制御用マイクロコンピュータ100、ステップS801, S802)と、第1態様決定手段の決定結果にもとづいて、特定演出において仮停止させる態様を決定する第2態様決定手段(演出制御用マイクロコンピュータ100、ステップS801)とをさらに備え、可変表示の表示結果として表示された態様に応じて、有利状態に制御されたことにもとづく遊技者にとっての有利度(ラウンド数、確変状態等の有利度)が異なり、第2態様決定手段は、1回目に仮停止する態様を第1態様決定手段の決定結果にもとづいて決定するとともに、2回目以降に仮停止する態様を仮停止の態様にもとづいて決定し(例えば、最終停止図柄よりもラウンド数の有利度が低い。)、2回目以降に仮停止する態様として、前回仮停止の態様に応じた有利度以上の有利度の態様(例えば、2回目に仮停止する仮停止図柄は、1回目に仮停止する仮停止図柄と比べて、ラウンド

数の有利度が高い。)を決定する。

そのような構成により、複数のタイミングで保留表示を特別態様に変化させて表示することが可能であるため、保留表示の表示態様を変化させるタイミングに多様性を持たせることができるとともに、保留表示が特殊態様で表示されたときには、保留表示を特殊態様から特別態様に変化させて表示するため、遊技興趣を向上させることができる。さらに、仮停止の態様の变化により、遊技の興趣を向上させることができる。